福岡県内の地域おこし協力隊が
さまざまなモノコトを発信

つながりタイ新聞

ここで仕事をするという“こと”を選択する

赤村源じいの森
ワーケーション新規事業特集

VOL. 24
2024. 6

これからのこと、それからのこと

地域おこし協力隊コラム

今回の担当：添田町・高瀬

４月末をもって、添田町地域おこし協力隊を退任します。
退任後は、主宰する建築設計事務所と、任期中に整備したコワーキングスペース「里山のシェアスペース　ツノオンド」の運営に携わり、引き続き添田町を拠点に活動していきます。
今回特集した、赤村とは隣町なので、この「ワーケーション」事業とも連携できるのではと考えています。
協力隊とは、つい自分の市町村だけに目を向けがちですが（もちろんそれが本業です）もう少し広域に視野を広げると、さらに可能性は広がると思います。
新聞部に所属し、多くの地域とのご縁が広がりました。まちづくりとして・ビジネスとして、このご縁を生かして今後より具体的に連携を深めていけたらと思います。
また、空き家を店舗にするまでのノウハウをまとめた冊子を作成し、コワーキングスペースに常設しています。筑豊方面に来られた際は、是非、遊びに来てください。
「つながりタイ新聞を読んだ」で、何かしらサービスします◎

里山のシェアスペース ツノオンド
Instagram

写真 長野聡史

発行元 **福岡県地域おこし協力隊新聞部**

市町村の枠を超えて集まった、福岡県内の地域おこし協力隊。
自分の地域のおもしろいコト、お隣の地域のおもしろいヒト、
遠く離れた地域のおもしろいモノ・・・。
地域にとらわれず、さまざまなモノコトを発信します。

つながりタイ新聞

インスタグラム

つながりタイ新聞
つながりタイ新聞は、現在、当ペーパーの発行と、Instagramをメインに活動しています。自分たちの活動のみならず、福岡県で活動しているさまざまな市町村の地域おこし協力隊の情報を発信しています！

ふくおか協力隊図鑑
「ふくおか協力隊図鑑」とは、福岡県内の現役地域おこし協力隊・OB/OGの活動内容や自己紹介をまとめた、ポートフォリオのようなInstagramアカウントです。福岡県地域おこし協力隊新聞部で運営を行っています。

今回の参加メンバー

編集・紙面構成：うきは市 歴史まちづくりプランナー　三角 俊喜

源じいの森キャンプ場の各所を“仕事場”に見立て、協力隊新聞部のアイディアを集結
これから始まる『ワーケーション新規事業』の未来像を語り合ってみました

「他地域の協力隊が力を合わせたらどんな未来が描けるんだろう」

そんな想いから今回の企画が実現しました。

柴田 和輝
赤村

私は田川郡赤村の地域おこし協力隊として、赤村の複合施設 源じいの森の「集客数の増加」「顧客満足度の向上」を主なミッションに、イベント企画や広報を担当しています。

今回のワーケーション体験研修を企画したきっかけは、源じいの森が抱える課題にありました。それは「平日の利活用」です。キャンプ場や温泉、研修宿泊施設として30年以上地域の顔として存在し続けている源じいの森ですが、多くの方に愛されている反面、娯楽施設という側面が強く、平日の稼働率が低い傾向にあります。

そこで、新たに「ワーケーション（ワーク＋バケーション）」をテーマとし、都市部で働く社会人に非日常的で新鮮なコミュニケーションの場を提供するための、ベンチャー企業・小規模団体向けワーケーションプランの検討を始めました。

そもそも源じいの森は、都市住民との交流と健全な余暇活動の推進を図り、村の活性化に寄与することを目的とする自然学習施設として開業しました。つまり、現代における「ワーケーション」需要は、まさに源じいの森の事業目的に適っていたのです。

モニター企画を行いたいと考える中で、私が所属している「福岡県地域おこし協力隊新聞部」のメンバーがワーケーションプランのペルソナに合致していると思い、次号の取材を兼ねた協力依頼をしました。新聞部は、県内の異なる地域で活動する現役協力隊が集った有志グループです。それぞれのミッションや強みがあるので、そんなメンバーと力を合わせたらどんな未来が描けるのか、とても興味がありました。依頼に際しては、赤村役場に公式の依頼文を作成してもらい、自治体と連携した企画として実施しました。

ワーケーション体験研修では、実際に「新聞部が源じいの森でワーケーション事業を創るとしたら」というテーマでブレストや模擬会議を行い、メンバーの強みを活かした意見交換や場内散策ができ、すごく有意義な時間となりました。今回の研修で得た新たな気付きを活かして、今後の協力隊活動に取り組んでいきたいと思います。

赤村キャンプライフコーディネーター 柴田 和輝

＜赤村役場 協力隊担当者のコメント＞上條さん

今回は「源じいの森でワーケーションを」をテーマに、県内で活躍する協力隊の方の力をお借りしてプランの体験とアイディア出しをしていただきました。これを今後のプラン造成に活かしてほしいです。

ワークビレッジ、源じいの森！アウトドアでアウトプット！

三角 俊喜
うきは市

源じいの森が、オフィスワークに疲れた人々にとってのインスピレーションの源となる未来。「場の見立て」を通してバンガローや木陰はオフィスに、炊事場やデッキは会議室へと変容します。近隣の市町村に点在するコワーキングスペースやカフェと連携することで、地域の事業者と交流しながら、新たなビジネスモデルのアイディアが湧き出るような場所となります。

マイナスイオン溢れる木陰のオフィス空間

▼ワーケーション新規事業に向けて、各所のポテンシャルをみんなで発掘してみました！！

ワーク　グループワーク　村民交流　自然体験　テントサイト　食べる　泊まる　温泉　駐車場　鉄道

松木 響子
糸田町

あつまれ！源じいの森

源じいの森が、都市住民の「非日常」と赤村住民の「日常」が交差する場となる未来。地域通貨やマイレージ制の導入、動植物の収集といった「あつまれ！どうぶつの森」のゲーム性を取り入れることで、人々の交流が楽しく自然に生まれていきます。そのような場でのワーケーション体験は、実際の仕事や教育へのゲーミフィケーション活用のヒントにもなるかもしれません。

サバイバル講座（川水の浄水）で村民交流

加藤 詩乃
築上町

今日のオフィスは源じいの森

ワーケーションを通して他地域や他業種の人との繋がりが生まれ、源じいの森が地域づくりに興味がある事業者の集いの場となる未来。心身のリフレッシュだけでなくその後の仕事への効果といった利用者へのさらなる価値提供に加え、施設の稼働率が上がることで村内の雇用促進にも繋がるという、田舎のキャンプ場のワーケーションロールモデルになることでしょう。

他地域・他業種とのつながりの創出

高瀬 舞
添田町

自分の働き方・過ごし方を自由にデザインできる施設に

源じいの森を中心に、田川市郡全体がワーケーションに適した地域になっている未来。いいかね Palette（田川市）、サテライトオフィスおおとう（大任町）、コミュニティセンター採 do 所（香春町）、里山のシェアスペースツノオンド（添田町）といった既存の施設を結びつけることで利用者もより広い視野をもって自分のワークスタイルを選択できるようになります。

ワーケーションの核となる宿泊機能